

第 18 回日本抗加齢医学会総会

P008

大阪, 2018. 05. 25

当院不妊治療成績と喫煙に関する検討

小宮慎之介<sup>1)</sup>, 福田愛作<sup>1)</sup>, 森本義晴<sup>2)</sup>

1) IVF 大阪クリニック 2) HORAC グランフロント大阪クリニック

### 【背景】

喫煙習慣により各種疾患の発生率が上昇することは、いまや一般常識となっている。本邦においても、健康増進法の改正、煙草の価格改定や分煙/禁煙化事業の推進などにより喫煙者は減少しているものの、平成 29 年の JT 全国喫煙者率調査によると、女性の喫煙率は 20 代、30 代、40 代でそれぞれ 7.0%、11.5%、13.7%と報告され、不妊治療への影響が懸念される。

### 【方法】

平成 27 年 4 月から同年 6 月末までの 3 か月間に当院を初診で受診された女性 323 名のうち、基礎疾患、合併症を認めず、当院で一般不妊治療を継続実施した 80 名について、喫煙歴と不妊治療成績との関連を後方視的に検討した。

### 【結果】

80 名中、喫煙者は 14 名（全例がパートナーも喫煙）、受動喫煙者は 26 名、非喫煙者は 40 名であった。喫煙率は 17.5%、受動喫煙率は 39.4%であった。平均年齢は、喫煙者で 34.4 ± 6.1 歳、非喫煙者で 37.1 ± 5.1 歳であった。35 歳以下における FSH(mIU/mL)は、喫煙者群、受動喫煙者群、非喫煙者群でそれぞれ 6.60 ± 1.20、6.37 ± 4.29、6.05 ± 2.89 であった。妊娠歴のない症例に限定して比較したところ、卵管狭窄(FT 実施)率はそれぞれ 14.3%、21.0%、11.1%、一般治療での妊娠率は 20.0%、20.0%、28.6%であった。また、妊娠成立までに必要な期間は 187.8 ± 131.2 日、141.6 ± 65.3 日、110.6 ± 60.1 日であり、非喫煙群に比較して、喫煙群で有意に治療期間が延長 (p=0.041) し、受動喫煙群で治療期間が延長する傾向がみられた (p=0.052)。

### 【結論】

喫煙は不妊治療成績に対し悪影響を与えることが明らかとなった。不妊治療開始当初から、本人およびパートナーへの集中的、継続的な禁煙指導を行うことが肝要である。